

『続・ライブの話』

あれから1ヶ月。ちょっとだけこぼれ話を。

武道館ライブの最終リハーサルを終えたその夜、家に帰ってギターケースを開けると見覚えのない赤いピックが弦に挟んでありました。その両面にはキラキラ光るライブロゴのデザインが。「本番がんばろうね！ スタッフ一同より」というメモとともに。自分で言い出したくせになかなかうまく弾けないギター、もう本番なのにどうすんだ…と不安だった私には、ものすごく心に沁みるサプライズプレゼントで、夜中にひとり部屋で大声をあげて泣きました。こんな素敵なスタッフに囲まれているんです、私の自慢の仲間です。

バンドのメンバーは本番直前の楽屋で「これみんなからのプレゼント！」と大きな箱を手渡してくれました。中を開けると、私がボソッと「欲しいなー」とつぶやいていた赤いポッドが！！なんということだ！メイクが終わったばかりだというのに本番前に早くも泣かされてしまいました。私がリハのときから必死で練習している姿をまったく見守っていてくれたみんな。まさかこんなプレゼントを用意してくれていたなんて！みんなの優しさに支えられたおかげで、本番はリハのときよりもずっとうまくプレイできました。しかしこんなものをいただきちゃったら、もうギターやめるわけにはいかないね。次に会うときまでもっともっと上達した姿を見せられるように頑張らなくては。本当に本当に嬉しかったです。

15周年記念ライブということでスペシャルゲストで参加してくれた菅野よう子さん。ふたりだけのメドレー、とても楽しかったです。まさかの「チロルチョコ」。この作詞をしてくれた一倉宏さんも「まさか武道館で聴けるとは」と言っていました(笑)。そしてパンフレットではカメラマンとしてコラボをお願いしましたが、こっちも大好評。菅野さんでなければ撮れなかったショットばかりでした。菅野さんに見つけてもらった日から15年。30歳になりました。この出会いがなければ何も始まらなかった。たくさん生きるヒントをもらった私の大切な人です。ありがとう。

そしてもうひとりのスペシャルゲスト、鈴木祥子さん。一度やってみたかったツインドラムの夢を叶えてもらっちゃいました。佐野さんとのコンビネーションしびれた！大好きなドラマーが二人もいっぺんに一緒にステージに立ってくれるなんて、これも私にとって最高の贈り物でした。祥子さんのライブを見に行ったときドラムをガンガン叩きながら熱唱する姿に見とれて以来、いつか祥子さんのドラムで歌ってみたい…と密かに思っていました。しかしサプライズで祥子さんがハッピーバースデーの歌を歌いながら巨大ケーキと登場したシーンでは、きっと泣かせようという計画だったんでしょうし、今までの私なら泣いていたでしょう。しかしこの日は絶対泣かないと決めていた、だけではなく、祥子さんがチャッカマン片手に歌っているという図に、なんとも恐縮するやら面白いやらで涙より笑顔がこぼれてしまいました(笑)

つくづく、人との出会いに恵まれている幸運に感謝します。すてきなオトナに囲まれています。世の中には、カッコいいオトナがいっぱいいるなあ。私も彼らのように、子供のような無邪気自由なところと、にっこり微笑みながらすごいことをやってのける雄大さを併せ持つ、そんな歳の重ね方をしたいなあと思います。

というわけで、番外編でした。

* maaya *

あの日、ライブが終わった後、車の窓から見た千鳥が淵の夜桜はとっても美しかった。満開のちょっと手前の、今まさに最高に輝くときを迎えようとしている、生命の力強さがあった。

私はバンドやスタッフたちと気持ちのよいお酒を飲み交わし、明け方の交差点で手を振り合って別れ、家に帰って熱いシャワーを浴びてから、朝日の中でベッドに入りました。身体はとてつもない疲労を感じているし、お酒も飲んでいるのに、まだ気持ちが高ぶっていてなかなか眠れない。ほんの少しうとうとただけで3時間後にはもう出かける準備をしていました。今日も、普通に仕事に行くために。

フワフワする身体で、テキトーな服を着て、ほんやり電車で揺られながら、後ろの人に背中を押されちょっとよろける。つり革につかまった手には、昨日メイクさんが塗ってくれた白いマニキュア。「確かに私、昨日武道館でライブしたんだよなあ」となんだか不思議な気分。体中が痛いよ、眠いよ…。でもきつと、昨日一緒に過ごしてくれた1万3千人のお客さんたちも、今ごろそれぞれ自分の日常に戻ってこんなふうにごろごろしているのかなあと思うと、なんとなく心強い。夢みたいに楽しかった昨日の余韻を持って、私たちは自分の普通の毎日に帰ってきたんだ。またいつか会う日まで、日常という名前の特別な一日一日を重ねていく。

30歳の誕生日で、ベストアルバムの発売日で、武道館ライブ。

3つの大きなイベントが重なった2010年3月31日という日は、確かに特別な1日になりました。たくさんの人に集まってもらい、おめでとうって言ってもらえて、大好きな歌を歌える。これ以上ない幸せな日でした。

だけど昨日も今日も明日も来週も、何曜日でも何の日でも、いつだって私たちは生涯に一度しかない特別な1日を生きていることに変わりはありません。そしてその連続を「日常」と呼んでいるのです。そのことは普段は忘れちゃっているんだけど、ときどきでいいから思い出して、少し背筋を伸ばして歩けたらいいなと、改めて思いました。

あの日はひたすら感謝の気持ちを伝えたいと思っていました。でも今思い返してみると、もつと言えよかった。まだ足りなかったと思ってます。だからここでもう一度言わせてください。

ありがとう、本当にありがとう！こんなに長く歌い続けてこられたのは、私が発しているものを受け止めてくれる人がいたからなのです。私の歌を聴いて一度でも何か感じてくれたことのある人すべてに心からありがとう。

ベストアルバムを聴いてくれた皆さん、ライブに来てくれた皆さん、ありがとう。遠くから来てくれた人や、おこづかいを一生懸命貯めて買ってくれた人もいます。みんなの気持ちがほんとに嬉しいです。ライブに来たかったのに平日だから無理だった皆さん、あるいはライブのために仕事を休んでくれた皆さん、ごめんね。世の中が忙しい年度末なんかには生まれてごめん！また次のライブで会えるように願ってます。

それから今回は360度全部にお客さんを入れるステージの組み方をしていました。そのため主に私の後ろ姿を見ることになったお席の方もいたと思います。見にくい場所だった皆さん、ほんとにほんとに、ごめん！それでも楽しんでもらえるようにと私なりにいろいろ考えたのだけど、どうだったかな。ごめんなさいね。でも私は、お客さんが私の肩越しに別のお客さんたちの姿を見られるというも輪になって向かい合ってる感じがして好きでした。みんなと一緒に歌ってくれた最後の曲では、色とりどりの歌声の渦の真ん中に立って、ものすごく感動的でした。3階席の一番後ろまで私からは見えてました。ありがとう。

バンドとスタッフとスペシャルゲストのお2人に。ああ、なんと言えよいかわからないくらい、感謝しています。大好きです。みんな私の自慢の、最高の仲間たちです。これからもずっとそばにいてください。

15年、歩いてきた道。いつも夢中で、必死で、なかなか振り返ったりする余裕はなかったけど、今改めてまわりを見回してみると、私は本当にいろんな人たちに出会い、支えられ、たくさん経験しながら生きてきたんだなあをつくづく思います。どんな出来事にも意味があって、すべてが繋がっているなあ。だから、「ふるさと everywhere」。帰る場所、私を育ててくれた場

所、懐かしい愛おしい場所は、今日までのすべてにある。

実はこのライブをやろうと決めたのは、去年のかぜよみツアーの最終日、打ち上げで乾杯をしたそのときだったのです。ライブにあまり積極的でなかった私が、ライブをもっと知りたくなった日。その日から私の中で、この武道館ライブに向けての時計が動き出しました。そして今回、武道館ライブを終えたとき、また新しい時計が動き出したのを感じました。それに向かって、またこの普通で特別な毎日を生きていきます。

また、会いましょう！

* maaya *

... THE ID